

魅力ある学校づくり協議会 (上板橋第二中・向原中) ニュース

第7号

発行日：平成 27 年 3 月 13 日
開催日：平成 27 年 2 月 27 日
発行：板橋区教育委員会事務局
新しい学校づくり担当課
学校配置調整担当課長
電話 3579-2624

議事 1・2 東京の液状化予測と向原中学校の地盤について、学校の跡地活用について

- ・上板橋第二中も向原中も東京都が公表している液状化予測では液状化の可能性が低い地域となっている。
- ・向原中の地盤調査の結果では深度 10m 以降に「N 値(※)50」の数値結果が出ており比較的良い地盤である。「N 値 50」の地層は一般的に支持層と言われ、学校建物を建てる際に基礎として打つ杭をここで止める。
- ・学校の跡地の活用については「公共施設跡地活用基本方針」に基づき検討される。

※N 値：地盤の固さ(強さ)を示す。地盤調査用の棒を打ち込み、測定する地質で先端が 30cm もぐるのに要する打つ回数。

議事 3 教育委員会への報告について

2 月 12 日の教育委員会に、協議会において学校の統合と新しい校舎の建設を契機に小中一貫教育について検討してほしいと地域から要望があることを報告した。教育委員会では校舎一体型の小中一貫教育校の建設は校地面積が確保できないことから物理的に設置できないため、板橋区では校舎が離れていて連携をとる小中一貫型教育校が現実的ではないかと意見があった。また、小中一貫教育の検討を開始するのであれば、地域からの要望もあるので上板橋第二中と向原中の統合を契機にモデルケースとして始められないかと提案した。その後、上板橋第二小と向原小の両学校長に小中連携教育を検討することとなった際はこの地域で一緒に検討していきたいことを伝え、ご理解いただいた。

議事 4 統合に関する教育委員会事務局の統合案への質疑・意見

前回協議会で教育委員会事務局が提示した統合案について、委員が一人ずつ意見を述べました。

事務局案 1. 新しい校舎を建設する校地は、向原中学校の校地とする。

2. 上板橋第二中に向原中を編入する編入統合方式を採り、校名は上板橋第二中学校とする。

委員：校地はこれまでの土地の状況の比較から向原中の校地に建てた方がよいということは皆さまには明らかだと思います。校名は、前回ご覧いただいた向原中のアンケートからも分かる通り、愛校心はありますが平和的に治めたいという気持ちから、新しい校名を希望する意見が多くありました。向原の土地に「上板橋」の名はそぐわないという子どもの意見もありました。向原中は上板橋第二中から分離しましたが現保護者の親世代の話ですから、子どもたちの今の気持ちを大切に決めてほしいと思います。平成 21 年 9 月に教育委員会から向原中改築のお知らせが送られ、以降、向原中の生徒数は減る一方でした。新しい学校ができるのを夢見て向原中に入学し、耐震工事で狭い思いをして卒業したお子さんもいました。向原中の良い悪いではなく、こうした原因で生徒数が減ったことをご理解いただきたいです。「いたばし魅力ある学校づくりプラン」により新しい学校になると子どもたちは希望を抱いているのに、向原中の名がなくなるだけなのは、また裏切られるということです。

委員：向原中のお母様の悲痛な叫びは上板橋第二小の保護者も同じです。桜川中近く(小茂根 3~5 丁目)から上板橋第二中に入学させたいので上板橋第二小に通わせている保護者もいます。中学校に入学するときに統合に直面する保護者は、本当に心配し悲痛な思いでいます。本日もいらしている傍聴人は意見を言えませんが、たくさん意見があるのです。協議会の雰囲気は教育委員会では道筋ができあがって話を聞くだけのように感じました。委員として責任ある発言をと思い、なかなか本音は言えなかったのですが、上板橋第二中の土地に上板橋第二中が残らないのはおかしいと思います。魅力ではなく区の都合が強く感じられます。本音が言え、地元の方の意見がきちんと聞き入れられ

るような協議会の場になってほしいと思います。

委員：校地を向原中にするのは賛成です。広さもありますが、小中一貫教育校を今すぐ実現することは難しいとのことですから、現在は向原中に新校舎を建て、将来、上板橋第二小の改築時期に小中一貫校を建てることをビジョンにしても良いのではないかとということも理由です。それから、向原中の校地に新校舎を建て上板橋第二中の校名にした場合、新校舎に何か面影を残す等をしない限り向原中には何も残らないと思います。卒業生も在校生も校名がなくなることは大変残念に思っていますが、それでも新しい校名でスタートした方がお互いの遺恨が残らないという意見が多かったです。

委員：それぞれの思い入れを話し出せばずっと相容れないことになると思います。現実問題として統合しないとうまく動かない状況になっており、デッドラインは決まっていると感じます。校地は向原中より上板橋第二中の方が良いと思っています。理由は皆さんと同じで上板橋第二小と上板橋第二中が隣り合っている地に建てるべきだと思います。環状七号線より北側から向原中に通うには遠くなり不便ですから、そこをどう寄り合うか、また、小学校との関係について、環状七号線より北側から上板橋第二小に通っていた子たちは桜川小に通うのか、どうまとめるか、そうした問題も含めて検討しなければならないと思います。

委員：向原中の現状では学校として機能するのかなと思います。子どもも向原中出身ですし向原中に思い入れもありますが、感情移入してしまうと話が振り出しに戻ってしまいます。当面の解決を考えますと向原中を閉校、上板橋第二中との統合が自然で、統合であれば校名は上板橋第二中とするのが自然であると思います。当初は上板橋第二中の地に小中一貫教育を含めて考えた方が良かったと思いますが、それが無理ということであれば、向原中が適法で地盤も安定しているので上板橋第二中を向原中の地に移設する、跡地については別途考える、小中一貫教育はこれを契機に検討していただく、と決着させないと、本来平成31年に行う改築が遅れ、もっと混乱してしまいます。魅力ある学校についてもっと検討していく方が大事であると思います。

委員：協議会では環七より北側は校地がどちらになっても通学区域から外されると感じました。今後、向原小、上板橋第二小が検討され、校地が上板橋第二小となったら小学校は大谷口支部、中学校は桜川支部になることが心配で、この解決のため小中一貫教育校あるいは上板橋第二中に校舎を残す提案を色々しました。規模の大きい学校が吸収するのは当たり前な感覚はあり、小中4校（上板橋第二中・向原中・上板橋第二小・向原小）の全体をもう少し時間をかけて考えたいです。しかし向原中の結論は出さなければならないと迷いがあり、学校名まで考えられません。また、上板橋第二中の校地で小中一貫校を検討した予測生徒数は小茂根3～5丁目を含んだ人数なので外れれば小中一貫教育校も立つのではないかと思います。いずれにせよ上板橋第二中を残したいという気持ちです。

委員：私は町会から代表として出た立場ですし母校に愛着がありますから、何とか校名を残したいという気持ちはあります。皆さん愛着があり意見に思いが入ってしまいますが、協議会も7回目で振り出しに戻る訳にはいかないと思います。「魅力ある」の魅力が何のことかは分かりませんが、6回目に校地、校名について私なりに考えていた部分が教育委員会の方向性として出てきたので、ある程度決まっていた内容なのかなと感じています。ここで白紙に戻すことはあり得ませんし、小中一貫校の話が出ていますが、保留して10年後にする訳にもいきません。向原中の校地に新校舎を建設し、できれば新校名が良いと思いますが、上板橋第二中の校名でもよい気がしなくはないです。

委員：会長の意見は分かりませんが、校名は平行線、校地は広い方が良いという話は当たり前だと思いますが、7回協議して平行線では困る訳です。最終的には新しい校名で広い校地を使うしかないと思います。新潟県の学校訪問をしておりますが、訪問する中学校も統廃合しています。当時も同じような検討がされていたということです。出身母体としてはどちらも残してもらいたいという気持ちがあると思いますが、できれば、新校名に切り替えて広い校地、安心安全の場所に学校づくりを検討していった方が良いと思います。

委員：子どもが向原中出身で、その頃は1学年5学級ありました。先ほどの委員の話のとおり平成21年

に新校舎建設の通知があつて、区の諸事情で耐震化工事だけになったと伺っています。それがきっかけで子どもたちが減ってしまいました。前は小中一貫の話でしたが、60年経ち校舎を建て替えずにはならないことはわかりました。7回集まりがありました。今までの協議会は教育委員会からの説明にほぼ留まったと思います。やはり、これからお子さんを入学させる親御さんが真剣だと思います。敷地は向原中かもしれませんが、両校とも親御さんも先輩方も校名を残したいという気持ちはあると思いますが、校名は新しくした方が良くと思います。

委員：会長は移転に反対で、署名運動でも何でもやろうという気持ちでいます。事務局案はりんごの皮をむいて皮だけ食べさせ、中身は向原に行ってしまうような印象です。錦の御旗が立っていますが、上板橋第二中は現在素晴らしい学校になっています。私は福島県出身で、震災で粘土質の粘度が無くなり丘が崩れました。先程地盤の話がありましたが想定外ということもあるので、窪地ですから一概に言えないと思います。本当は向原中も上板橋第二中も残して欲しいです。議員から向原小を東京都に売り上板橋第二中と向原中を一緒にした方がいいとか、区境で子どもが少ないので向原中と向原小を小中一貫校にして上板橋第二中は上板橋第二小となど色々な話を聞きます。当町会、会長は移転に反対です。

委員：二校が机を向き合わせた協議ですから意見の突合せになると思います。前はB案（事務局案）が多数だったと思いますが、皆さん抵抗があるのは校名を上板橋第二中とすることだと思います。両校とも60年近くの歴史があり開校も12、3年の違いで、どちらも地域の人が土地を出し合いつづけた学校です。立地の話では上板橋第二中も療護園を広げるにはよい場所です。私自身も子どもも向原中を卒業し愛着がありますが、学校名に執着するのも情けない気がしますので、新しい学校に入る生徒、保護者に校名のアンケートをとってはどうかと思います。環状七号線は東京オリンピックの為に学区域を無視してできましたから、今回学区域を環状七号線で分けて考えてみてはどうかと思います。地名と校名の話は、上板橋地域としては小茂根、大谷口あたりも含むという意味で上板橋第二中としたのではないかと思います。どちらと言っているより新しい校名にしてはどうかと思います。

委員：校名はアンケートという形になっていくのではないかと思います。大谷口小と上板橋第二中に通う地域は通学区域なのに協議会に参加されていないので、呼べればよいと思っています。委員は卒業生や「元」がつく役職にいた者なので、これから係わる色々な方に入ってもらふ必要があると思います。協議会は7回目ですが具体的な話はつい最近です。役所は何が何でも平成31年にしたいようですが、すぐ解決する問題ではなく、もう少し時間をかけて進めるべきだと思います。平成31年にこだわらずに地域や小学校の児童保護者も協議会に加わるようになればよいと思います。もう一点、文部科学省の校庭の面積基準について「努力目標」と聞きましたが校庭は狭くてもよいのでしょうか。筋道を立てて話をして欲しいです。

事務局：校庭の面積基準に関する文部科学省令は平成14年に出されており、それ以前に建てられた学校の中には、基準を満たしていない学校が若干あります。それ以降に建てる学校は基準を守らなければなりません。「努力目標」のようなニュアンスでお伝えしたのは罰則規定がないということです。国から出された方針ですので、今後設計していく学校は基準を守らなくてはなりません。説明が足りず申し訳ありませんでした。

委員：向原中の改築計画の通知と中止、中台中の建て替え開始などに色々思うところがありますが、少子化のなかでこうした状況になり、建て替えの時期であると理解しています。校地は子どもたちが通う通学路の安全面や利便性を考えてほしいと思いますし、校名は編入統合した場合と新設統合した場合の時間面・予算面の違い（制服代など）を教育委員会から示していただきたいです。予算立て等についてはっきり打ち出していない限り、皆さん学校に愛着がありますから、話が進まないと思います。元PTA会長の立場として感じたことは、情報がきちんと伝わってこないということです。向原中の生徒数が減った一番の原因は風評被害だと思っています。

委員：協議会では魅力ある学校とは何かを話し合い、そのうえで校地の検討になると思っていたのですが、校地を決めた後で中身の検討になっていました。私の耳に入るのは両校とも残せないかという意見でしたので、向原中をスポーツや芸術に特化した学校にして、校舎をコンパクトにし設備を充実させた特色ある学校として残せないでしょうか。板橋区はエクセレンスや東京ヴェルディとの連携、スポーツ大使の任命などを行っています。上板橋第二中については小中一貫教育に関する検討が始まってから考えてもよいのではないかと思います。4校を1つの学校にする等、この地区はどういった魅力ある学校づくりができるか考えていってほしいと思います。

委員：向原中に通うとなると水が溜まりやすい場所を通うことになるのが保護者として心配で、向原住宅の建替えも通学路に影響しますので明らかになるまで統廃合を待つてほしいです。上板橋第二小の保護者には周知不足でこの協議会にようやく気づき始めた段階です。自分の子どものときはどうなるのか、不安を感じるだけで情報はあまりないです。統合した場合、通学路の安全面、教員はどうなるのか、学校方針はどうなるのか、不安に思うだけです。保護者としてはもう少し時間をかけて欲しいです。また、小茂根地域（小茂根 1・2 丁目）は人が集まる地域センターや集会所がなく、上板橋第二中が象徴のような存在でした。保護者への周知の時間をとって協議をしたいです。

委員：設計は平成 28 年度からになります。校地については少しでも広いほうが良いのではないかと子どもたちとも話をしています。スポーツにももっと力を入れ、子どもの体力面、体格面を考えても、子どもたちに広い校庭で部活動をさせてあげたいと思います。現役の子どもたちも同じように思っています。それぞれの校地ではどういった学校、校庭になるのか、だいたいの中身と外観の画が見えるとどちらがよいか進むと思います。建物設計をだしていただけると見やすいと思います。

委員：向原中の現状として今の 3 年生 32 名が卒業すると新 3 年生 12 名と新 2 年生 17 名になりますので 29 名で 3 学期の終業式、4 月の始業式を行います。学校規模としてはあまりにも極小化しており、メリットもありますがデメリットの方がはるかに大きくなってきています。一度生徒数が減ってしまうと親が二の足を踏みます。今のところ新入生は 36 名が入学予定です。この逆境の中非常にありがたいと思っています。上板橋第二中も 70 名台で、2 校併せて新入生 100 名程度の規模ですから、両校全体の在籍数を考えますと 2 校を存続させていくのは厳しいと思います。地域にも 3 年後に統合になる可能性が浸透してきている中で、更に先延ばしではまともならないと思います。

委員：皆さんの話を聞いて、振り出しに戻った、一からやり直しか、と感じました。卒業生・在校生の母校に対する熱い思いはわかります。しかし、平成 27 年度の新入生は上板橋第二中と向原中併せて 100 名程度です。更に校舎自体も区内で一番古い方に属します。待ったなしの状況で、新しい校舎の完成は今からでも 5 年かかり、これ以上先延ばしではここで勉強する子どもたちが心配です。入学する子ども達が魅力ある学校で生き生きと活動ができるのか、こう考えたときに向原中の校地の方が校庭が広い。中学生は勉強もさることながら部活動で左右されます。上板橋第二中の校庭で、ネットを引いてサッカー・テニス・野球が活動しているのを見るとかわいそうだと思います。学校は向原中に作る、校名は上板橋第二中を残す、お互いの歩み寄りがないとまともならないと思います。

事務局：次回の協議会は教育長が出席し、改めてみなさんのご意見を直接伺う場を設けます。

会長：このことがきっかけで地域に軋轢が生まれることを一番心配しております。意見は意見で出してください、協議を続けられるようお願いいたします。

次回予定

平成 27 年 3 月 23 日（月）午後 6 時 30 分～ 上板橋第二中学校（2 階）ランチルーム
協議内容 ① 前回協議会の事務局持ち帰り事項 ② 意見交換
協議会は原則傍聴できます。詳しくは下記までお問い合わせください。

発行元 板橋区教育委員会事務局 新しい学校づくり担当課 適正配置第一グループ

電話 3579-2624 FAX 3579-4214

※魅力ある学校づくり協議会（上板橋第二中・向原中）ニュースは区ホームページからご覧いただけます。

http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/063/063153.html